

CrossLoopブロックされる場合の対応 (Windows Firewallブロックの場合 (Windows 7))

A Windows Firewall によるプログラムブロック解除方法

1. スタートボタン⇒全てのプログラム⇒CrossLoopにカーソルを当てます。(クリックはしません)



2. そのまま右クリックしてプロパティを選択します。



Windows Firewallブロックによる症状は、接続ボタンを押しても、繋がらない、承認画面までは、進むのに、そこから先(相手の画面を見る)へ進まない状態になります。

通常はインストール時に、自動で本プログラムが解除するのですが、インストール時のプログラム動作環境またはインストール時に Windowsが出すメッセージで“ブロックを解除する”をあやまって“ブロックする”を押してしまった場合に発生します。

3.右の画面が出てきますので、リンク先を探す ボタンを押すと右画面になりますので“ファイルの場所を開く”ボタンを押します。
以下の画面に変わりますので、CrossLoopのプログラムが、どのファイルに格納されているか確認します。

以下の表示がでますので、アドレス記載部分にカーソルを当てて右クリックし、アドレスの編集をクリックすると正確なアドレスが表示されます。
以下の場合C:\User\C1-Win7\AppData\Local\CrossLoop
に格納されている事になります。

このファイルの格納場所を記録しておきます。

(カーソルはこのあたりで右クリック)

The screenshot shows the Windows Explorer window with the path `C:\Users\C1-Win7\AppData\Local\CrossLoop` selected. The right pane shows a list of files and folders. The 'CrossLoop' application is highlighted. The Properties dialog box is open, showing the 'CrossLoop' application with the following details:

- 種類: アプリケーション
- 場所: CrossLoop
- リンク先(T): `bservice=www.crossloop.com -startup=server -nosac`
- 作業フォルダー(S): `C:\Users\C1-Win7\AppData\Local\CrossLoop`
- ショートカットキー(K): なし
- 実行時の大きさ(R): 通常のウィンドウ
- コメント(O):

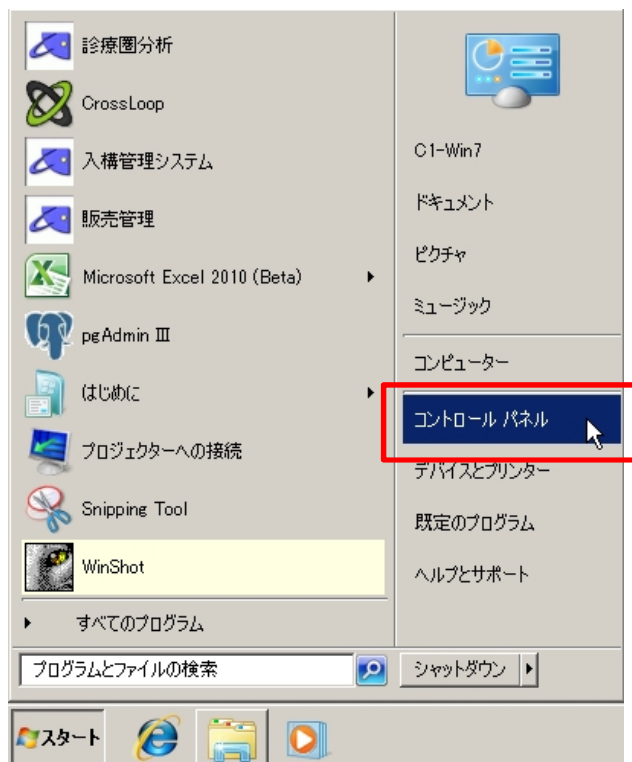
The 'ファイルの場所を開く(F)' button is highlighted in the Properties dialog box.

名前	更新日時	種類	サイズ
CrossLoopClient	2010/04/16 11:59	ファイル フォルダー	
access	2009/01/21 14:18	Visual InterDev Pro...	1 KB
AccessLog	2009/01/21 14:18	ビットマップ イメージ	1 KB
Application	2009/01/21 14:18	アイコン	9 KB
ApplicationActive	2009/01/21 14:18	アイコン	9 KB
ApproveConnection	2009/01/13 12:35	PNG イメージ	14 KB
ContactMessage	2009/01/13 12:35	PNG イメージ	16 KB
CROSSLfooter	2010/08/30 13:40	PNG イメージ	12 KB
CROSSLfooter	2010/08/30 13:40	XML ドキュメント	1 KB
CrossLoop.vnc	2010/08/30 16:51	VNC ファイル	2 KB
CrossLoopApp	2010/01/25 18:53	XML ドキュメント	12 KB
CrossLoopAppDisabledUAC	2009/12/29 16:58	XML ドキュメント	11 KB
CrossLoopAppEnabledUAC	2010/01/25 18:53	XML ドキュメント	12 KB
CrossLoopConnect	2010/02/15 19:06	アプリケーション	1,140 KB
CrossLoopConnect	2010/08/30 16:53	構成設定	2 KB
CrossLoopService	2010/02/15 19:07	アプリケーション	548 KB
CrossLoopStrings.bg	2009/01/21 13:56	XML ドキュメント	11 KB
CrossLoopStrings.cs	2009/01/21 14:05	XML ドキュメント	8 KB
CrossLoopStrings.da	2009/01/21 14:09	XML ドキュメント	8 KB
CrossLoopStrings.de	2009/01/21 14:11	XML ドキュメント	7 KB
CrossLoopStrings.en	2009/01/21 14:15	XML ドキュメント	7 KB

ApplicationActive 更新日時: 2009/01/21 14:18
大きさ: 32 x 32

ApplicationActive 更新日時: 2009/01/21 14:18
大きさ: 32 x 32
サイズ: 8.73 KB
作成日時: 2010/04/06 9:05

4. スタートボタン⇒コントロールパネルを押して



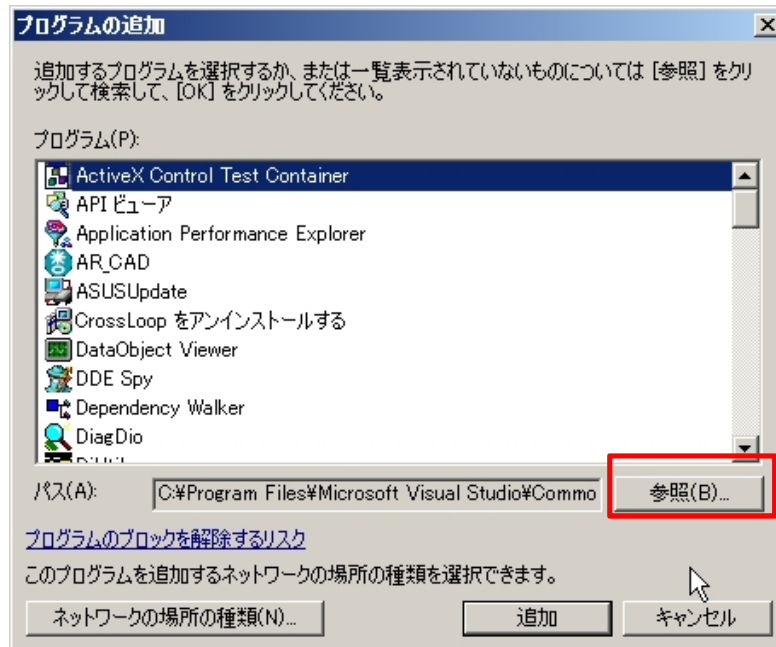
5. システムとセキュリティをクリックします。





6. ①Windowsファイアウォールによるプログラムの許可⇒②設定の変更⇒③別のプログラムの許可の順に押していきます。

6.以下の画面となりますので、参照ボタンを押します。

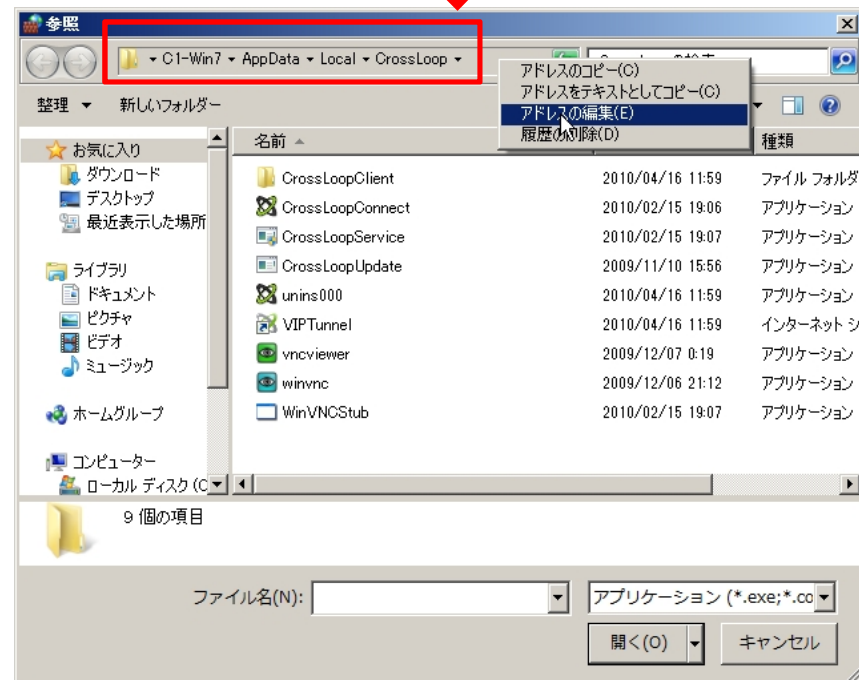


7.先程記録しておいた(2ページ参照)

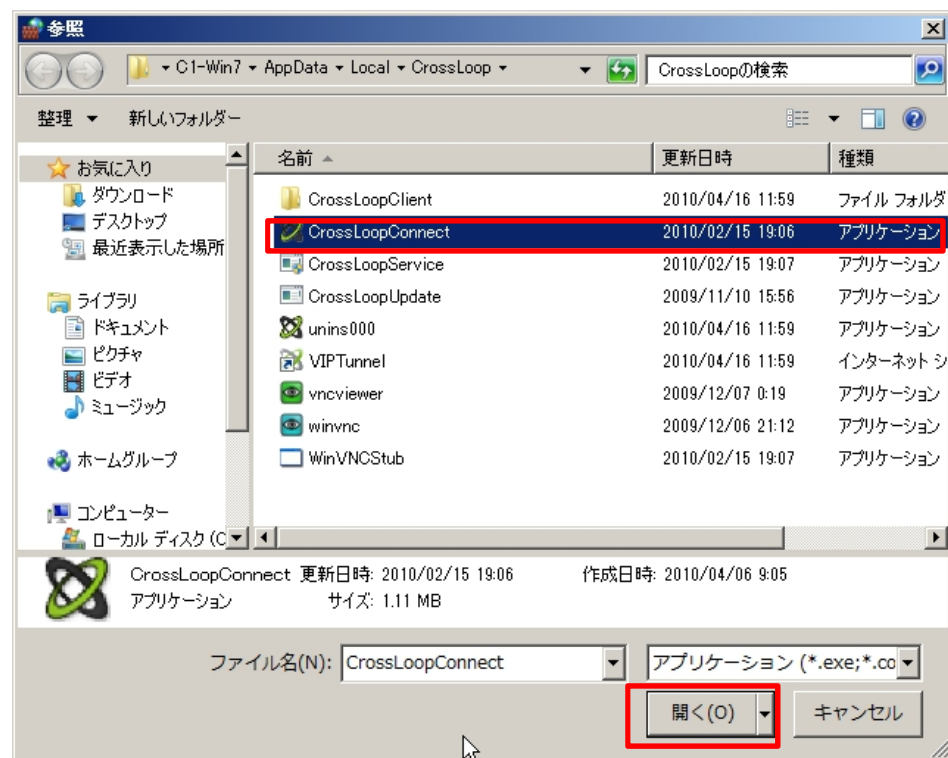
C:\User¥C1Win7¥AppData¥CrossLoop

のファイルを選択します。アドレス部分にカーソルを当てて、右クリックでアドレスの編集を押すと、アドレス部分が編集可能となりますので、現在表示されているアドレスを Deleteキーで削除して、記録しておいたアドレス(上記の場合C:\User¥C1Win7¥AppData¥CrossLoop)を入力します。その後Enterキーを押すと、指定のアドレスが選択されます。

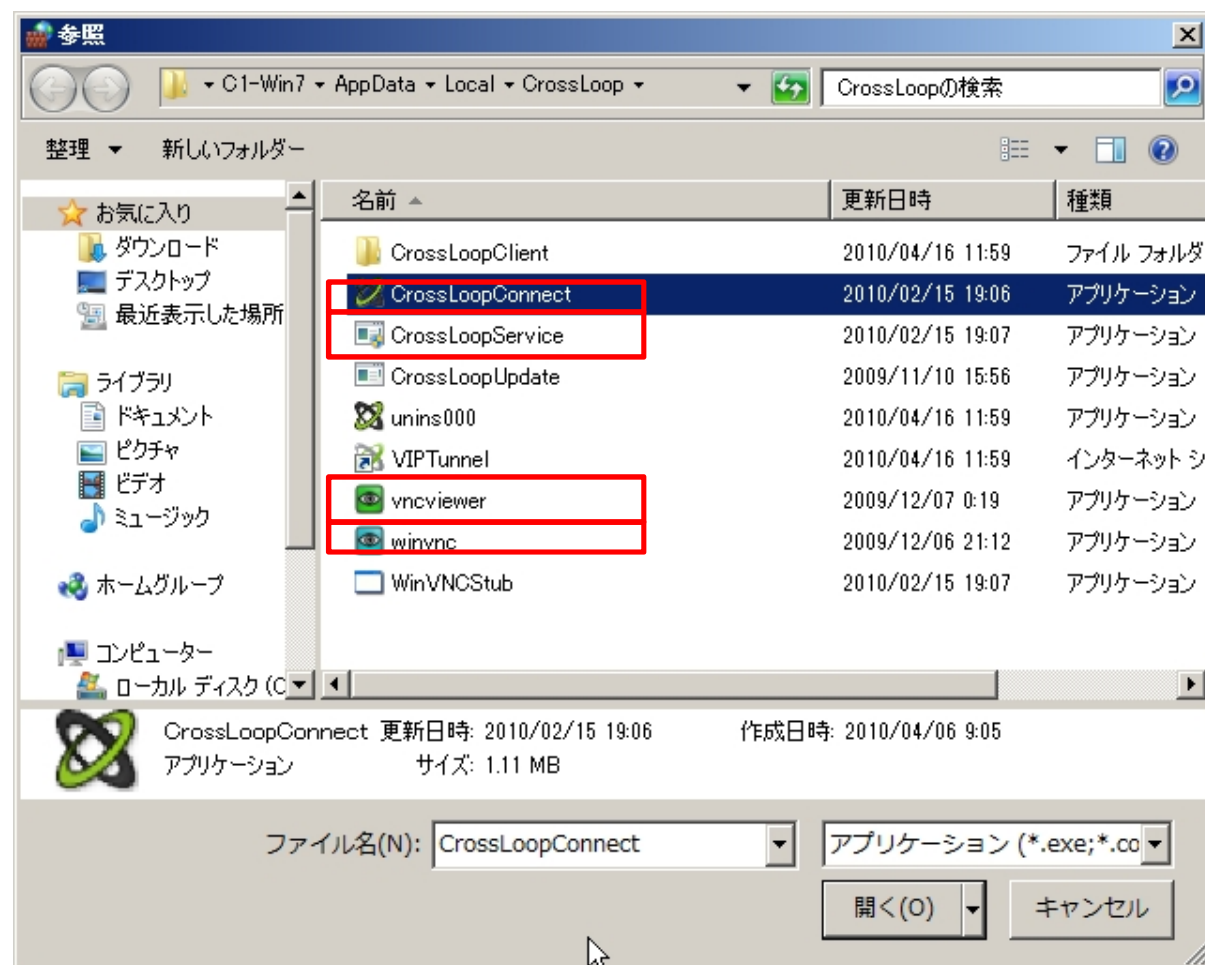
アドレス部分↓



8.以下の画面が出てきますので、CrossLoopConnect.exeを選択し 開くボタンを押します。



9. 4～6 ページの作業をCrossLoopconnect.exe winvnc.exe vncviewer.exe CrossLoopservice.exe の4つのプログラムで行います。

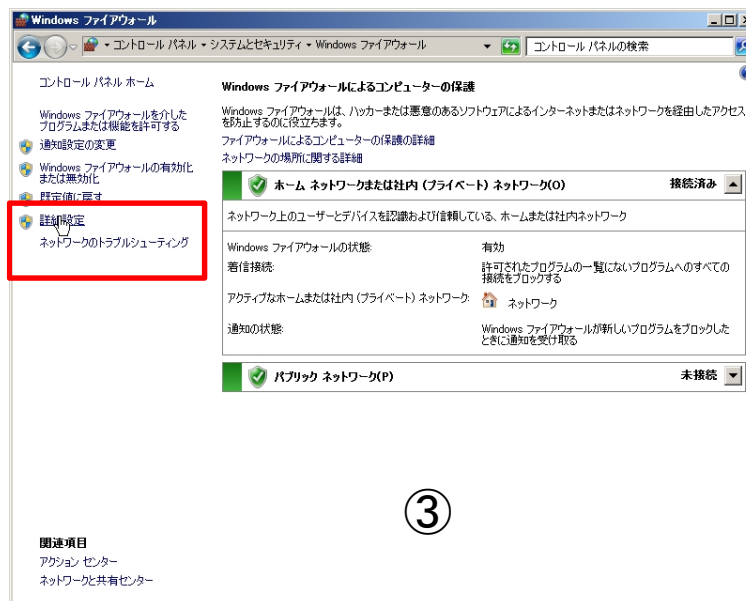


B Windows Firewall によるポートブロック解除方法

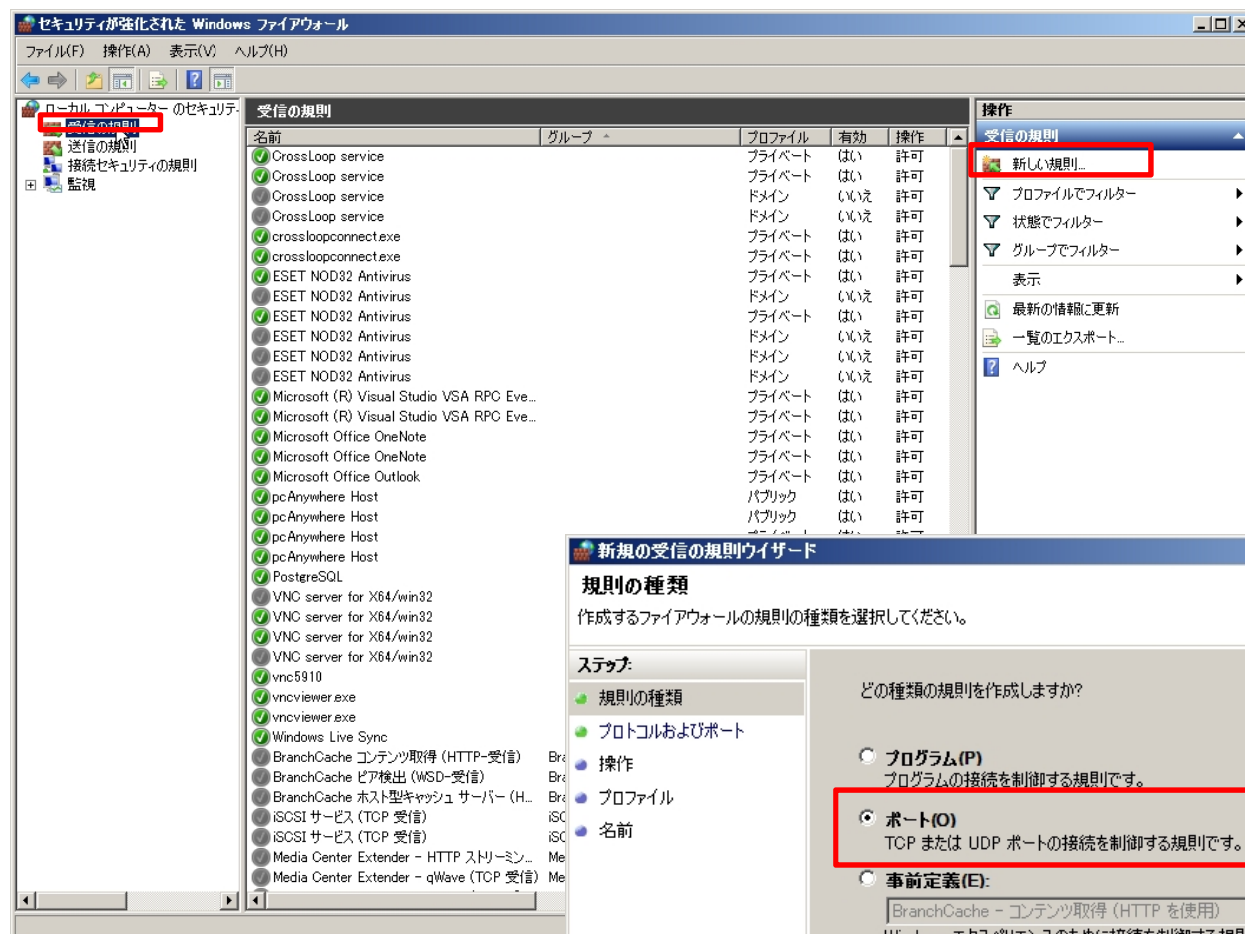
10 ファイヤーウォールによるポートブロックを解除します。



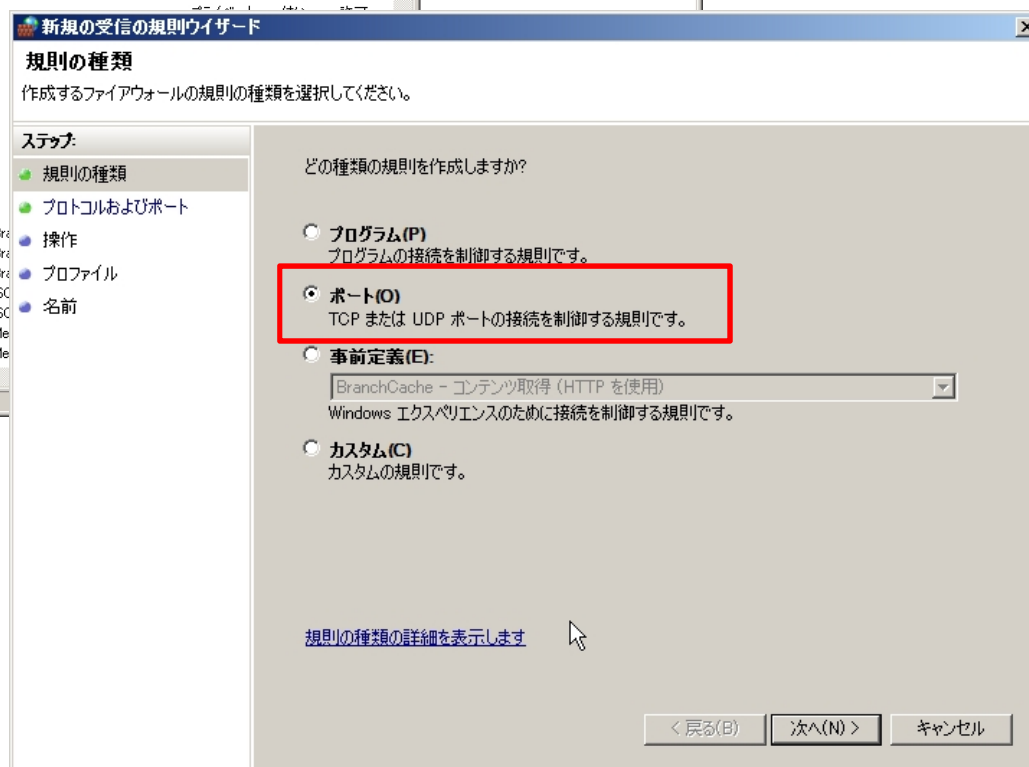
コントロールパネルを開き、システムとセキュリティを押し、次に Windowsファイヤーウォールの文字をクリックします。



次に 詳細設定をクリックします。



11 詳細設定を押すと左画面が出てきますので、受信の規則を押した後で、新しい規則を選択します。すると以下の画面が出ます。ポートにチェックを入れて“次へ”のボタンを押します。



12 次へを押すと、以下の画面になりますので4930-4932を入力し 次へボタンを押します。
(4930-4932は4930から4932までを意味します。)

13 接続を許可するにチェック
を入れ次へボタンを押します。

14 最後にポート開放に対する名前を付けて(例えばCrossLoop)完了ボタンを押します

新規の受信の規則ウィザード

名前
この規則の名前と説明を指定してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

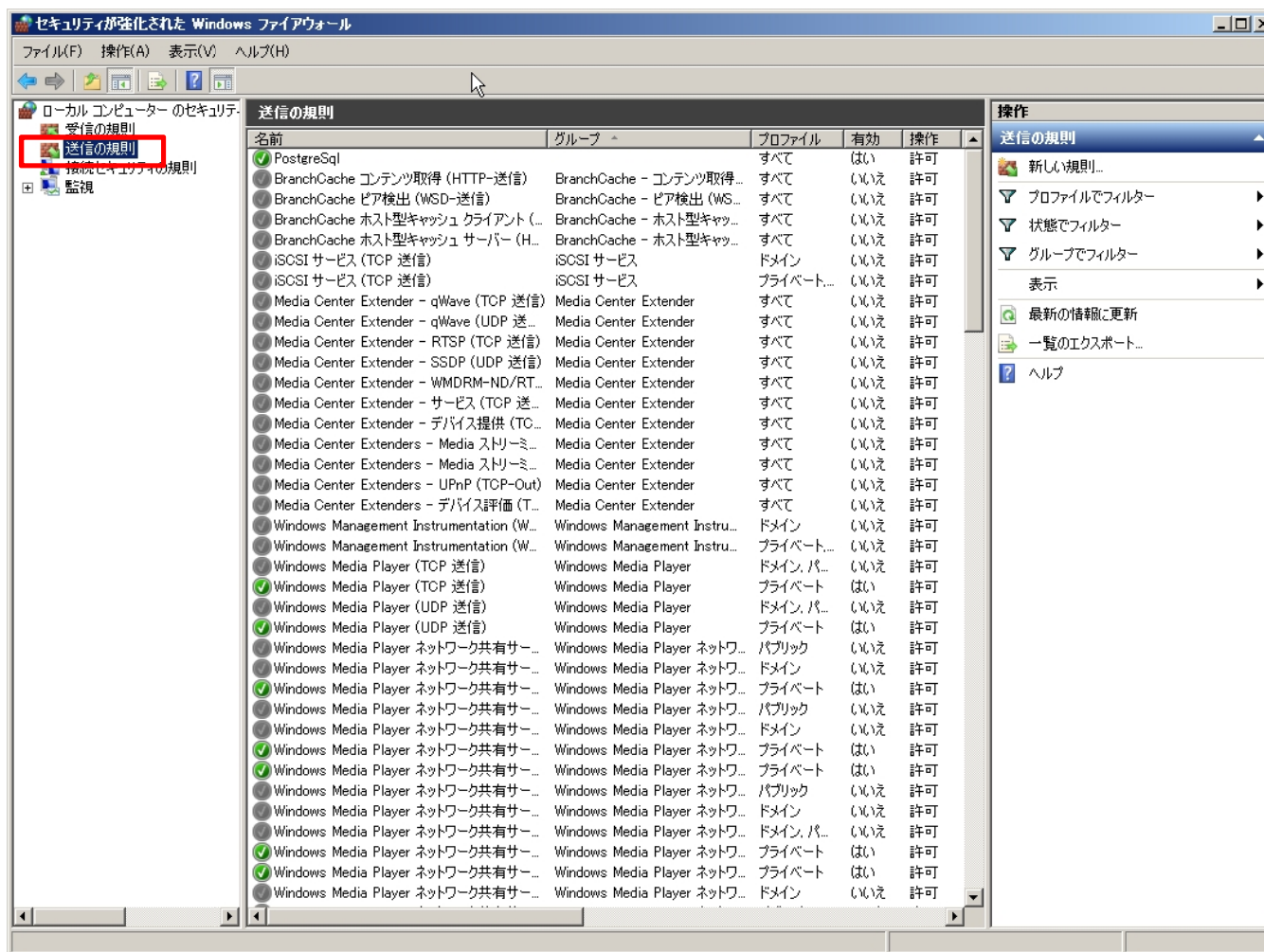
名前(N):
crossloop

説明 (オプション)(D):

< 戻る(B) 完了(F) キャンセル

15 ポート開放が
必要なのは4930 4931 4932 3478 3479
ですので、同じ作業を3478と3479
(3478-3479)のポートでも行います

16 同じ手順で**送信の規則**も追加します。ポート開放が必要なのは
4930 4931 4932 3478 3479のポートです。



この説明書に不明な点がございましたら、
<http://www.circleone.co.jp/> (株)サークル・ワン
 福田 までご連絡をお願いします。